

レジリエントな社会を目指して、サステナビリティを实践する

2021ASIM 共同宣言

2021年のいま、気候危機はますます深刻化し、コロナウィルス感染症の流行も続き、世界中の人はこれまで経験しなかったような生活の変化を強いられています。最悪の時代に直面していることは間違いありません。しかし私たちは、同じ「地球村」の市民として、この時代についてより深く考え、協力することができれば、ポストコロナの時代を最高の時代にすることができると信じています。

レイドロー博士は、1980年のICA（国際協同組合同盟）モスクワ大会で発表した『西暦2000年における協同組合』の中で、協同組合が今後特に力を入れるべき4つの優先分野を提案しました。第1に世界の飢えを満たす協同組合、第2に生産的労働のための協同組合、第3に保全者社会のための協同組合、第4に協同組合地域社会の建設です。これらの4つの優先分野について改めて深く考えてみると、協同組合は現在も、これらの分野で素晴らしい機能をはたしていることが分かります。具体的には、「食料の供給」「雇用の創出」「環境保全」「地域の課題の解決」です。

一方、国連は2015年、持続可能な社会を実現するために世界中で取り組む17の目標、「持続可能な開発目標（SDGs）」を掲げ、2030年までに達成することを目指しています。SDGsの目標は、協同組合がこれまで持続可能な社会の実現に向けて取り組んできた活動と重なる部分も多く、レイドロー報告の4つの優先分野での活動はまさに、SDGsの目標達成につながる活動と言えるでしょう。

日本の生活クラブ生協、韓国幸福中心生協、台湾主婦連盟生協は、協同組合運動の理念と国連のSDGsに沿って、より多くの女性たちと持続可能な社会づくりに取り組み、レジリエントな社会に向けて共に努力していきます。

1. 国産食料の安定的な利用を呼びかけ、各国の「食のレジリエンス」を強化します。

第一次産業は、人びとの生命の基盤となる産業であり、国産品の共同購入が第一次産業を支えます。国産の食べものの共同購入の力を結集し、食料自給率の向上、生産地や多様な生態系の保全、食のレジリエンスの強化を目指します。

2. 食材や物を大切に、廃棄物を減らし、循環型社会を实践します。

いまを生きるいのちと次世代のいのちを同じように大切に考えて、循環型社会を実現するために、資源をより節約し、化石燃料の使用を減らし、再生可能エネルギーを積極的に利用し、食品ロスを減らします。また、リユースやリサイクルによって、生活から出る廃棄物を減らします。

3. 食・農業・環境について協同する輪を広げ、ソーシャルグッドのために、より多くのパートナーシップを結びます。

レジリエントで持続可能な社会の実現のためには、より多くの協同組合関係者が食育、農業教育、環境教育に継続的に取り組み、都市と農村の協力ネットワークによって生産地域を強化し、「地球村」の市民が協力し、より多くのパートナーシップを確立してお互いを支えあい、ソーシャルグッドを目指した実践に取り組む必要があります。

2021年11月15日

日本 生活クラブ連合会

韓国 幸福中心生協連合会

台湾 主婦連盟生活消費合作社

山崎栄子

안인숙

彭桂枝